

事業総額 約200億円
延長465m、幅員20m

地下歩行空間はこんな姿に

ワークショップでは、公募市民50人で、施設の内容について検討しました。その内容などに基づいて描かれた歩行空間の姿です。

北はJR札幌駅、南はすすきのまで結ばれます。延長6kmの地下歩行空間ネットワークが誕生。札幌駅周辺と大通周辺の行き来がしやすくなり、都心の活性化など大きな効果が期待できます。

沿線ビルとの接続で、一体的な空間を生み出す。15年8月現在、28棟中24棟のビルから、接続したいとの意向が。ビルの改築のたびに空間の広がり期待されます。



歩行空間（12m幅）の両側に憩いの空間（両側4mずつ）を整備。芸術文化活動などさまざまな活用ができる憩いの空間を設け、にぎわいを生み出します。



誰もが分かりやすく、利用しやすいユニバーサルデザインに。出入口を分かりやすくするほか、地上と地下を行き来しやすいエレベーターなどの施設を設けます。

地下歩行空間の建設に合わせて、環境にやさしい冷熱・温熱エネルギーを都心内に供給する設備を整えることを検討中です。

これからの課題

地上と一体的な議論を

駅前通は、昨年策定した「都心まちづくり計画」の中で、「大商業圏をつなぐ」にぎわいの軸」と位置付けられています。地下部分だけではなく、沿道ビルとの連携など、地上部の姿についても考えていく必要があります。また、地下歩行空間を整備する目的やその効果なども、より多くの皆さんに知っていただくことが大切です。

そのため、歩行空間の設計作業に取り掛かる前に、駅前のあり方について、市民の皆さんと十分な議論を行います。

地下歩行空間の効果についても多くの方と情報共有



そこで...8ページ「大規模ワークショップ」へ！